

平成 22 年度（2010 年度）第 1 学年 4 月入学選抜検査

適性検査Ⅱ

平成 22 年（2010 年）2 月 3 日（水）実施

注意

- 1 指示があるまでは、この問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は 2 ページあります。問題用紙のあいているところは自由に使ってかまいません。ただし、問題用紙に書いたものは採点されません。
- 3 解答用紙は 1 枚です。解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 4 適性検査Ⅱの検査時間は 45 分間です。
- 5 声を出して読んではいけません。
- 6 問題用紙には受検番号と氏名を、解答用紙には受検番号を記入してください。
- 7 問題についての質問は受けません。
- 8 問題用紙を持ち帰ることはできません。解答用紙と一っしょに提出してください。

受検番号	氏名
------	----

東京学芸大学附属国際中等教育学校

TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY INTERNATIONAL SECONDARY SCHOOL

たろう

太郎君は「総合的な学習の時間」に、「現代日本の食文化」について調べています。

正しく箸を使えないなど、日本人の食の作法がいま崩れつつあると言われていています。そこで、太郎君は、まず「箸食」について調べ、ノートにまとめました。次に、何冊かの本で、いろいろな統計を調べました。それらをもとにして、現代日本の食文化の姿を考えてみることにしました。

次の資料やグラフを見て、問いに答えなさい。

資料 「太郎君のノート」

<疑問>地球上で「箸」を使って食事をする人たちはどのくらいいるか？

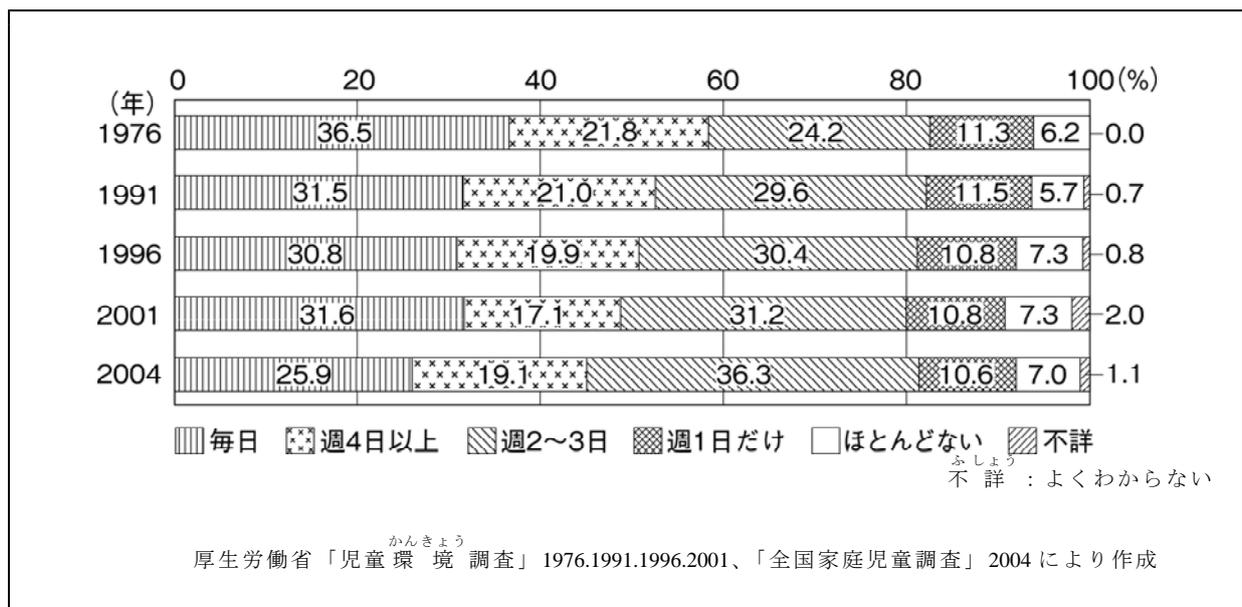
世界の三大食事方法と人口の割合

「手食」 ^{けん} 圏 ……	東南アジア、西アジア、アフリカなど	約 40%
「箸食」 ^{くす} 圏 ……	東アジア（中国、日本、韓国）など	約 30%
「ナイフ・フォーク・スプーン食」圏 ……	欧米など	約 30%

(ただしパンは手食)

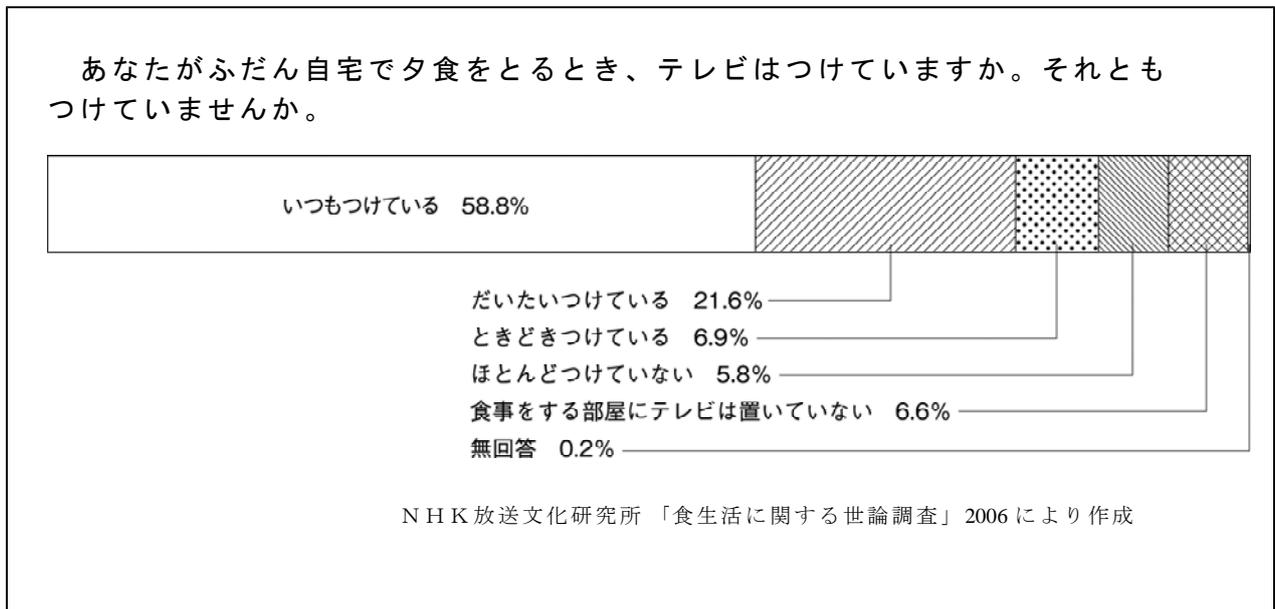
問1 ナイフ・フォーク・スプーンにくらべ、箸を使って食べた方が明らかに便利だと思われる食べ物の名前を一つあげ、どのように便利なのかを説明しなさい。

グラフ I 「家族そろって夕食をとる^{ひん ど}頻度」



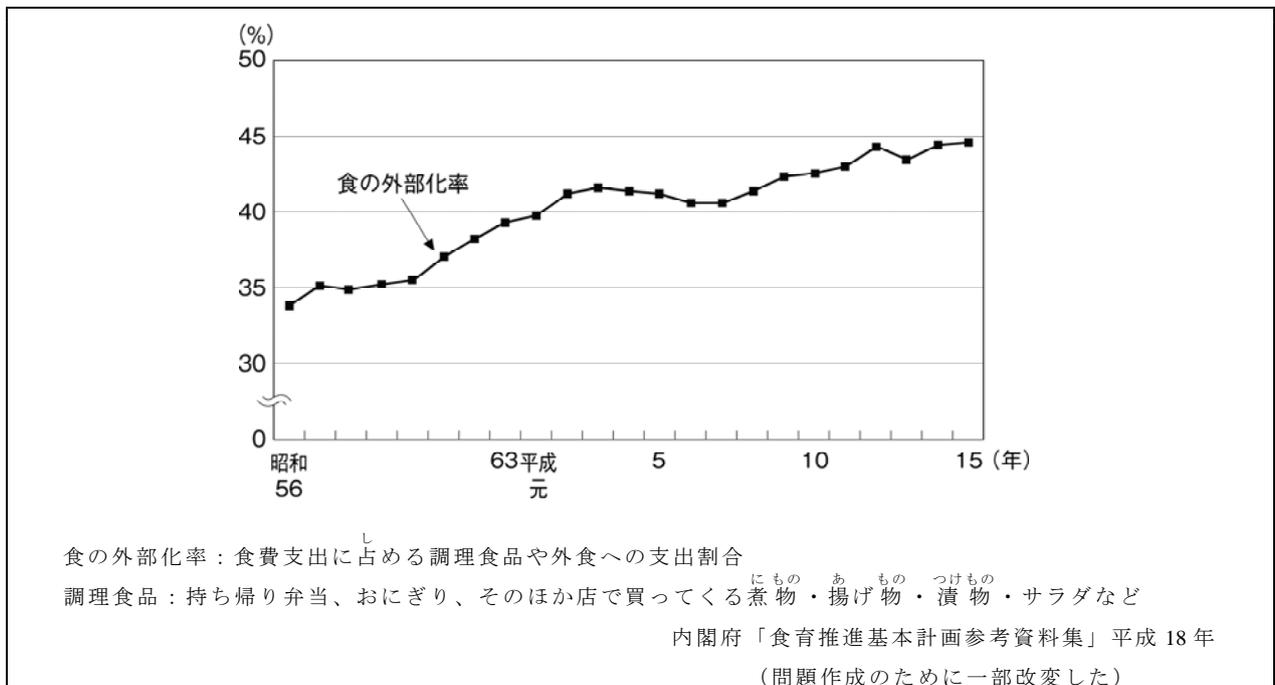
問2 グラフ I で、1976 年から 2004 年にかけてどんな変化が読みとれるか、簡潔に答えなさい。また、その変化の理由を、身の周りのことや見たこと、聞いたことをもとにして述べなさい。

グラフⅡ 「夕食時のテレビ」



問3 グラフⅡからわかるように、食事をするときにテレビをつけている家庭の割合が多いようです。このことについてあなたはどのように思いますか。良い面と悪い面の両面から述べなさい。

グラフⅢ 「調理食品や外食への食費支出」



問4 グラフⅢからわかるように、調理食品や外食への食費支出は、この20年間ふえる傾向にあります。このような生活の変化をあなたはどのように考えますか。いろいろな観点から考え、360字以上400字以内で述べなさい。